

第22回 補聴と聴覚活用を語るサマーフォーラムのご案内

皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。4年ぶりのご案内になります。この間様々なことがありました。コロナが蔓延し、行動制限により私たちの暮らしが一変しました。その影響はコロナ後の今も色濃く残っております。ウクライナや中東ガザ地区における紛争は平和を願う私たちの心に深く影を落としています。直近では令和能登半島地震があり、その惨状を見るにつけ被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

4年ぶりにサマーフォーラムを再開するにあたり、今を生きる聴覚に障がいのある子ども達を巡る私たちの姿勢には変わりはないものの、それを取り巻く社会の様子には様々な変化が見られます。そこで今回のテーマとして、改めて聴覚に障がいがある子どもたちの聴覚活用とは何かについて、その意義と課題について語り合うことができればと考えております。

今年度は1日開催といたします。特別講演として筑波大学名誉教授の廣田栄子先生から、新生児聴覚スクリーニング導入後の聴覚活用を巡る歩みと今後の展望についてご講演をいただきます。昼食を挟み、午後からは乳幼児期、学齢期、聴力評価を含めた機器フィッティングの3分科会に分かれていただきます。進行役の実行委員からそれぞれのテーマに沿った話題提供がなされ、皆様の日頃のご実践での悩みや疑問点を出していただきながら内容を深めていきたいと思っております。そうして再び全体会では各分科会で話し合われた内容を全員で共有して、実践につなげられるヒントを探っていきたいと存じます。

教員、言語聴覚士、そして補聴器技能者の方達と、補聴や聴覚活用について様々な立場からの感想や意見交換を通して、考えていくきっかけにできればと思っております。スタッフ一同、建設的な会になるように努めて参ります。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2024年4月

補聴と聴覚活用研究会

ホームページ <https://ha-al.org>

事務局

村上たか子(川崎市中央療育センター)

中川辰男(横浜国立大学名誉教授)



【要項】

1. 日時 2024年7月14日（日曜日）10時～16時
2. 会場 ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市幸区大宮町1310 TEL：044-520-0100)
アクセス：JR川崎駅中央西口に隣接

3. 参加

○ 資格 聴覚障がい教育の関係者、言語聴覚士、補聴器技能者及び関係者、学生

○ 定員 80名

○ 参加費

一般	4000円
学生	2000円

- 申し込み期限 6月30日(日) 定員になり次第締め切らせていただきます
- 申し込み方法 ホームページ<https://ha-al.org>からお申し込みください
- スマートフォンからも右のQRコードを読み取りお申し込みができます
- 送金先 以下の銀行口座にご送金ください
ゆうちょ銀行 店名0九八 普通預金 3427392 補聴と聴覚活用研究会
- 入金確認後、「入金確認メール」を送らせていただきます
- 領収書は当日受付にてお受け取り下さい
- 参加費のご入金後の返金はできませんのでご注意ください
- 開催日が近くなりましたら、詳細を第二報のメールでお届けいたします
- 情報保障として、音声認識ソフトによる文字通訳と逐次内容の修正を実施させていただきます

参加申し込み



4. その他

- 昼食 周辺にはコンビニ等があり、また付近で昼食をとっていただくことも可能です
- ご質問がございましたら、ホームページよりお問合せホームでお願いいたします
- スマートフォンからは右のQRコードを読み取りお問い合わせができます

問い合わせ



【プログラム 2024年7月14日(日)】(概要)

9時30分 受付開始

10時 オリエンテーション

10時20分 特別講演 司会：岡野由美[群馬パース大学]

<題目> 「乳児と軽中等度難聴児の聴覚活用を考える：新たな挑戦とは？」

<講師> 廣田 栄子先生(筑波大学名誉教授)

<講演概要>

新生児聴覚スクリーニング検査（NHS）の国内導入から20年を経過し、その間に難聴遺伝子診断保険収載、NHS後の1-3-6プラン推進、厚生労働省・文部科学省共同プロジェクト構築、難聴児早期療育支援の指針・支援体制強化施策等があり、社会的に大きな変革を迎えた。NHS後には乳児の聴覚診断と支援、家族への助言が要請され、担当する言語聴覚士や教師は新たな局面に直面している。軽中等度難聴児では人工内耳聴覚と共通する点もあるが、発達支援の原点と発展、今日、めざしたい目標について考えてみたい。

12時 昼食

13時 分科会

1. 乳幼児期(進行役：村上たか子[川崎市中央療育センター]・菅原充範[東京都立立川学園])

難聴乳幼児が聞こえる世界に入ること、他者との相互関係を深めながら、コミュニケーションを楽しんでいく様子を、映像やエピソード等を交えながら紹介します。参考として、健聴乳幼児の初期の聴こえと他者との相互関係の様子についても映像を交えて紹介する予定です。さらに、難聴児へ聴覚情報をどのように保障し、どのように関係性を構築し、そして聴覚活用を促していけるか、日々の実践を振り返りながら、参加者の皆様と共に具体的に話し合い、考える時間に使いたいと思います。

2. 学齢期(進行役：宮下恵子[千葉県立千葉聾学校]・進藤匡亮[横浜市立幸ヶ谷小学校])

令和6年4月1日より合理的配慮の提供が事業者にも義務化となり、「セルフアドボカシー」という言葉に触れることも多くなりました。自己の障害認識が深まることにより、難聴児自身が自身に必要な支援をまわりの人に説明し合理的配慮の提供を求め、積極的に社会に参加することができるようになっていきます。本分科会では自身の聞こえ方の把握やその手立てをテーマに、障害認識の深め方について話し合っていきます。

3. 聴力評価を含む機器フィッティング(進行役：木村淳子[横浜市立ろう特別支援学校]・中川辰男[前横浜国大教育学部])

補聴器フィッティングはまず聴力の正確な把握から始まります。年齢や合わせもつ障害によっては、聴力の把握が難しいこともあります。また教育現場では、補聴器フィッティングそのものが大切な学習ともなります。分科会では重複障害のある子どもの聴力測定・補聴器フィッティングや、フィッティングを通して聴こえの理解を深める指導についてまず話題提供します。そしてよりよい補聴器フィッティングについてみなさんと考えます。

15時 全体会 司会：笹目友香[国際医療福祉大学]

3つの分科会のまとめを行います。それぞれの分科会で話し合われた内容を全員で共有し、明日からの実践に繋げられるヒントを探ります。

16時 終了